



新板
石

雷神不動様

五之巻

遠
1914
54



13
1914
5



三十六



雷神不動櫻

五之巻

目録

第一

踊湯衣八洞のうら卑れぬ乞

蓬太敷と指子れぬひまふ姿

神よれ鈴ふりれよ女中の素路

神の山利せぬる巻え通れぬ

第二

行者をよみては深奥の煩惱の垢

松月がくま世と拂る塵芥中

意と業を帯びてはまゝに静と

男を戸へ女をうける生きたらぬ家

第三

内裏装束の跡に清き子鏡

悪魔と拂神風の懐びの軌者

白業月滅の因果聚てこそ像

若代は鑑光と益仁神の御高

一 彌湯衣の咽のかりく早れぬ

陽中は陰濁りて影うかす地影の陰中の陽軒也て清き抱

とて天と地空の地もよらぬおのれよりなり。云々風雲を異は燥

平にお割におけさる。且穀を鏡し。葛玉を楸と安んをば上君も亦

他く存りて業もあつ幸。友今此風俗。言た家みよりて人色はさす立

車の電ハ張ひにありと。仁徳帝の血縁も氏また小業し。或は同し

あつさるる。業舞れ代に。古に一取みに一風とゆつひひ下り

事よの極竟舞。あつさるるに。風ぬの行もさなる。立の画

るの相すて業くして候るりまる代と行し。よりこびまる。さうれはより

うぬつさじて大に早巻し。まらゆへ。そのをげきるや。あ。あ。

村く里くは。に業れおどり。と候し。大教を敲き。積る。して。天よ



百世の事... 王の御教... 吾人の... 實保三年...

▲抄りおきし...

強念諸藝袖日記

全部五巻

萬葉音羽流

全部五巻

右の初板より中二色... 實保三年... 父字屋八左衛門板

世間長者氣傳 又冊

阿漕浦三巴 又冊

美登曲編錦 又冊

花相細中比 又冊

百姓盛衰記 口冊

花文紙詰家詞 又冊

丹波与比屋間錦 又冊

葉花全後合 又冊

形智津山菅流 又冊

雷神不動様 又冊

書林

大坂市穀所

早川会物板

